

やまぎん アジアニュース

経済月報
No. 511 掲載分
平成 29 年 12 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【釜山支店】

韓国自動車産業戦国時代 ～第 2 弾～

1. はじめに

「プリウスキラー」「プリウスハンター」と呼ばれる「アイオニック」を皆さんご存知でしょうか？ 現代自動車のモデルですが、HV（ハイブリット車）、PHV（プラグインハイブリット車）、EV（電気自動車）のパワートレイン 3 種類を選択できる世界初の車種として 2016 年に発売されて以降、ヨーロッパを中心に評価を高めています。

実際、現代・起亜自動車は「2020 年までにエコカー販売台数世界 2 位」を目標としてきましたが、アイオニック効果により、2017 年上半期（1～6 月）には、首位のトヨタ（598 千台）に続く 2 位（102 千台）となり、早くも目標を達成しました。

今回は韓国におけるエコカー、特に今注目されている EV についてご紹介したいと思います。



※現代自動車 アイオニック・エレクトリック写真（出所：autoblog）

2. EV シフトの流れ

これまでトヨタの HV に対抗し、ヨーロッパメーカーはディーゼル車を中心に環境対策を推進していましたが、2015 年にその先頭に立っていたフォルクスワーゲンの不正問題が発覚し、その戦略に陰りが見えはじめました。また、テスラを中心とした EV メーカーの躍進

もあり、今、新たなHVへの対抗戦略として、EVへの注目が集まっています。

実際、次の表の通り、ヨーロッパを中心とした各国がエコカーに対する規制を発表しています。ガソリン、ディーゼル車のほか、HV・PHVに対する規制が強まっており、現在、世界自動車販売シェア44.9%を占める各国で将来的なPHVの販売禁止、または何らかの規制を行うことが決定されています。世界自動車大国である中国はもちろんのこと、今後大きな市場として成長が期待されるインドにおいてもHV・PHVの販売が困難になることが予想され、HV・PHV中心に舵を取っていた日本、韓国で急激なEVシフトが起こっています。

【規制によるガソリン、ディーゼル、PHVの販売可否】

規制国	規制開始時期	ガソリン ディーゼル	PHV	2016年	
				四輪車販売台数	シェア
米国	2018年	▲	○	17,866千台	19.0%
中国	2019年	▲	▲	28,028千台	29.9%
ノルウェー	2025年	×	×	198千台	0.2%
オランダ	2025年	×	×	469千台	0.5%
インド	2030年	×	×	3,669千台	3.9%
スウェーデン	2030年	×	×	432千台	0.5%
ドイツ	2030年	×	×	3,709千台	4.0%
フランス	2040年	×	×	2,478千台	2.6%
イギリス	2040年	×	×	3,124千台	3.3%
その他				33,893千台	36.1%
世界四輪車販売台数				93,856千台	100.0%
内、PHVが×OR▲の国				42,107千台	44.9%

※▲は販売が一部規制される場合。

※出所：電気自動車ニュース「各国のガソリン車・ディーゼル車販売禁止の状況」
日本自動車工業会「主要国の四輪販売台数」

3. EV市場及び現代・起亜自動車の躍進

EV市場における世界販売台数は2016年では466千台ですが、2035年には13倍の6,300千台まで成長すると予想されています。現在、その市場の大半を中国が占め、韓国シェアは1.1%程度となっています。しかし、韓国の伸長率は中国と並び世界1位で、2017年（1～8月）においても韓国の累計EV販売台数は既に7千台と、前年台数5千台を大きく上回っており、その市場拡大のスピードには驚かされます。

その韓国EV市場の成長を支えているのが、現代・起亜自動車のEVシフトです。これまで日本同様、HVに注力していた現代・起亜自動車でしたが、2016年の「アイオニック」の販売からEV市場へ本格参入しており、実際、2017年（1～8月）韓国市場における販売台数7千台のうち、5千台が現代自動車の「アイオニック・エレクトリック」、1千台が起亜自動車の「ソウル」となっています。

また、世界におけるメーカー別EV販売台数でも、現代自動車・起亜自動車は既に2017

年には世界トップ 10 の JMC（中国）と同等の販売台数となっています。ルノーグループである日産を除けば、トップ 10 に入る日本メーカーはおらず、現代・起亜自動車は日本メーカーより EV シフトが進んでいると言っても過言ではありません。更に現代・起亜自動車は 2020 年までに EV モデルのラインナップを、現在の 3 モデルから 12 モデルまで拡大する計画を掲げており、今後の更なる成長が期待されています。

【EV 新規登録台数実績】 単位:千台

Country	EV		
	2016 年	前年比	シェア
中国	257	75%	55.2%
米国	87	22%	18.7%
ノルウェー	30	6%	6.4%
イギリス	11	4%	2.4%
フランス	22	26%	4.7%
日本	15	48%	3.2%
ドイツ	11	▲6%	2.4%
カナダ	5	19%	1.1%
韓国	5	75%	1.1%
その他	23	-	4.9%
全体	466	43%	100.0%

【世界 EV 販売台数(メーカー別)】

単位:千台

順位	会社名	2016.1~8 月		2017.1~8 月		伸長率
		台数	シェア	台数	シェア	
1	テスラ	45	14.2%	63	13.6%	140.0%
2	BAIC(中国)	23	7.2%	44	9.5%	191.3%
3	日産	36	11.3%	37	8.0%	102.8%
4	BYD(中国)	26	8.2%	29	6.3%	111.5%
5	ZotyeZhidou(中国)	10	3.1%	28	6.0%	280.0%
6	ルノー	19	6.0%	34	7.3%	178.9%
7	BMW	15	4.7%	20	4.3%	133.3%
8	ZOTYE(中国)	14	4.4%	17	3.7%	121.4%
9	シボレー	3	0.9%	17	3.7%	566.7%
10	JMC(中国)	8	2.5%	15	3.2%	187.5%
-	現代・起亜	-	-	15	3.2%	-
合計		318	100.0%	464	100.0%	145.9%

※出所：GlobalEVOutlook2017（IEA）、SNE リサーチ 2017 年 10 月

4. EV バッテリー市場における韓国メーカーの奮闘

EV 業界で注目されるのは完成車メーカーだけではありません。EV では中核部品がエンジンからバッテリーとモーターに替わることで、車載部品 3 万点のうち 1 万点が減少すると言われています。その中で特に重要視されるバッテリー市場でも、韓国メーカーの活躍が見られます。

世界 EV バッテリー（車用）市場では、日本、韓国、中国の 5 社で世界シェア 60%以上を占めています（次表参照）。現在、テスラを中心に取引を行っているパナソニックが大きくリードしていますが、伸長率を見れば、韓国勢が驚くほどのスピードで追随していることが分かります。理由は、現代自動車「アイオニック」を中心に、韓国勢のバッテリーが搭載されているシボレー「ボルト EV」、ルノー「ZOE」、BMW「i3」、BMW「330e」、BMW「530e」、フォルクスワーゲン「e-ゴルフ」の販売好調によるものとされています。特に LG 化学では、EV バッテリー年間売上 1.7 兆ウォン（約 1,760 億円）（2017 年見込み）が、2020 年には 4 倍以上の 7 兆ウォン（約 7,200 億円）まで拡大するものとらんでおり、パナソニックに追いつく日も近いのかもしれませんが、今後も、韓国バッテリーメーカーの動向にも目が離せません。

【世界EVバッテリー(車用)出荷量】

単位:MWh

順位	会社名	2016.1～8月		2017.1～8月		伸長率
		出荷量	シェア	出荷量	シェア	
1	パナソニック(日本)	4,483.0	23.6%	5,659.9	23.2%	26.3%
2	CATL(中国)	2,091.8	11.0%	3,155.6	12.9%	50.9%
3	LG化学(韓国)	1,023.6	5.4%	2,686.5	11.0%	162.5%
4	BYD(中国)	2,606.4	13.7%	2,372.2	9.7%	▲9.0%
5	サムスンSDI(韓国)	775.3	4.1%	1,409.5	5.8%	81.8%
	その他	8,039.3	42.3%	9,114.6	37.4%	13.4%
	合計	19,019.4	100.0%	24,398.3	100.0%	28.3%

※出所：2017年10月 Global EV and Battery Shipment Tracker, SNE リサーチ

5. 終わりに

韓国自動車産業戦国時代シリーズ第2弾は、第1弾の現代・起亜自動車グループに引き続き、EV市場の急激な変化の中で奮闘する韓国メーカーの現状を中心にご紹介しました。今後、EVで成長が見込まれる韓国市場及び韓国メーカーにビジネスチャンスを見出してみてはいかがでしょうか？

また、自動車業界ではEV市場の他にも、技術革新とともに目まぐるしい程の変化が起っています。実際、東京オリンピックでは空飛ぶ車で聖火台を点火する構想が出ているなど、その技術革新のスピードは計り知れません。次回、第3弾ではその最新技術を利用した韓国自動車業界の今をご紹介します。

円換算相場 100ウォン=10.38円

【参考文献】

- ・ 聯合ニュース 2017. 8. 22 記事

「現代・起亜自 エコカー販売台数世界2位に＝1～6月」

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2017/08/22/0200000000AJP20170822000800882.HTML>

- ・ 週刊ダイヤモンド 2017. 10. 21

「パナソニックトヨタが挑むEV覇権」

- ・ 電気自動車ニュース- EV smart ブログ

「各国のガソリン車・ディーゼル車販売禁止の状況」

<http://blog.evsmart.net/ev-news/global-petrol-gas-car-ban/>

- ・ 日本自動車工業会

「主要国の四輪車販売台数」

http://www.jama.or.jp/world/world/world_1t2.html

-
- 株式会社富士経済 HP 「マーケット情報」
<https://www.fuji-keizai.co.jp/market/17059.html>
 - The International Energy Agency (IEA)資料
「GlobalEVOutlook2017」
 - 聯合ニュース 2017. 10. 05 記事
「EV市場が急成長 販売台数が前年比約4倍に＝韓国」
<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2017/10/03/0200000000AJP2017100300500882.HTML>
 - sisajournal-e.com 記事 韓国経済 2017. 11. 9 記事
「モデル3生産に支障、不安テスラの電気自動車市場1位」
<http://www.sisajournal-e.com/biz/article/174708>
 - 現代自動車 IR 資料
「HMC IR PT (2017年9月)」
 - 起亜自動車 IR 資料
「Kia Investor Presentation(2017年9月)」
 - 亜州経済 2017. 10. 26 記事
「LG化学、2020年EVのバッテリー売上7兆ウォンを期待」
<http://www.ajunews.com/view/20171026174427102>
 - ZDNet KOREA2017. 10. 12 記事
「LG・サムスン、電気自動車のバッテリーの出荷が急増」
http://www.zdnet.co.kr/news/news_view.asp?artice_id=20171012102802